

## 平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学・理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。  
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。  
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。  
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

#### ① 学力調査結果と分析

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	学力の状況
国語A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均正答率を下回っていたが、言語についての知識・理解については、全国平均に近かった。伝えたい事実を明確に書く、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く等の設問で、無回答率が高い。</li> <li>・手紙の書き方や語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う等の設問では、全国平均正答率を上回っていた。</li> <li>・文脈に即して、漢字を正しく書く、読む等の設問の正答率が低かった。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている。
国語B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての設問で、全国平均正答率を下回っていた。特に、自分の考えを具体的に書く、表現の工夫について自分の考えをもつ等の設問では、正答率がかなり低い。</li> <li>・資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く問題は、全国平均正答率をやや下回る程度であった。</li> <li>・文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く問題では、無回答率が高かった。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
数学A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均正答率を下回っていたものの昨年度より上昇していた。文字を用いた式や連立方程式の設問での無回答率が高く、理解していない生徒がみられた。</li> <li>・比の意味や正の数、負の数の計算(乗法についての設問)、対頂角の理解等の設問で全国平均を上回っていた。</li> <li>・一次関数、度数分布、図形の証明等の正答率が低く、無回答率も高いので、論理的思考力の向上が課題である。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている。
数学B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国平均正答率を下回っていた。関数については、他の領域に比べて全国平均に近い。</li> <li>・必要な情報を的確に処理解釈する、図形の性質を用いて説明する、二つの数量関係を比例であることを判断する等の設問では、全国平均を上回っていた。</li> <li>・問題の文章を式で表すことや問題解決の方法を図形の性質を用いて説明すること等の設問において、無回答率がかなり高い。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に全国平均正答率を下回っていた。特に化学分野において、事象を定量的にとらえる問題や、自然現象を状態変化など化学的に関連づけてとらえる問題の正答率が低い。</li> <li>・化学分野における実験を通じた問題や、地学実験からデータを正確に読み取る問題は、全国平均正答率を上回っていた。</li> <li>・化学分野において、定量的に活用する能力を問われる問題において、無回答率が高い。</li> </ul>	全国平均正答率との比較 下回っている

#### ② 学校における学習状況に関する調査結果と:

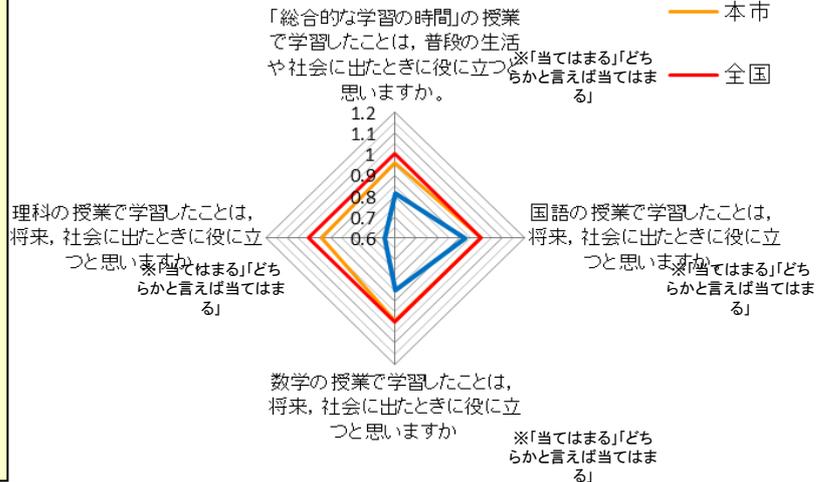
本校と本市の対全国比(全国を1とする)

— 本校

— 本市

— 全国

授業で学習した内容が、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますかという問いに対して、国語、数学、総合学習に関しては、半数以上が、当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と考えているのに対し、理科は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」をあわせても、35.3%の生徒しか役に立つと考えていないことがわかる。全国平均に比べると、調査したどの教科も、約10%近く低くなっている。現在の授業の課題を改善させるためには、生徒の学習意欲を向上させることである。その方策として、授業で学習している内容が、生活の中で活用され、生活に結びついているかを実感できるような、教材・教具(数学の証明、理科の実験・観察など)活用が不可欠であると考え

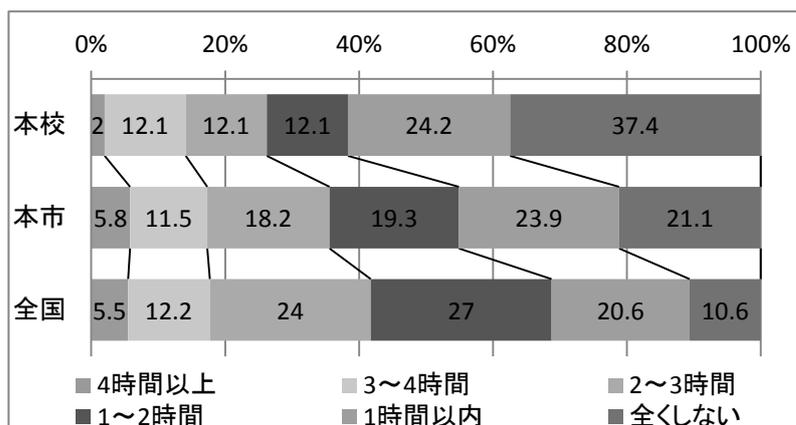


## 2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

### ① 家庭学習習慣に関する調査結果と分析

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)

学校が休みの日に家で全く勉強をしない生徒が37.4%である。本市で21.1%、全国で10.6パーセントに比べて、はるかに高い割合となっている。昨年度より、6パーセントは減少しているが、まだかなりの高い割合である。家で学習する習慣がついていないせいや、宿題や授業の復習も全くしない生徒の割合も、本市、全国平均の割合よりかなり多い。家庭学習の方法を指導するなど、学習習慣の定着が必要である。



### ② 生活習慣等に関する調査結果と分析

生徒の1日あたりの携帯電話やスマホなどでの通話やメール、インターネットなどを使用する割合は、2,3時間以上使用する生徒について全国平均の約3倍とはなはだしく多い。また1日にテレビやビデオ、DVDを見る時間や、テレビゲームををする時間も、全国平均の約1.7倍である。一方、テレビやインターネットでニュースを見る生徒は、全国平均より約13%ほど少ない。スマホやインターネットを活用する生徒が多いので、社会科(ニュースの活用)や理科のインターネットを活用した学習活動などに取り組み、情報機器を家庭学習などにも活用できる方法を検討することで、家庭学習の定着も期待できると思われる。

## 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

### ① 教科に関する取組

#### ◇ 学力向上のための特設時間の実施

##### <継続実施>

- ・朝自習テストの実施(週ごとに教科を決め、月～木に朝自習を、金に朝自習テストを行う。合格点まで何回もくり返し実施し、課題克服に努める)
- ・これテスの実施(定期考査に各教科10問ずつ出題される、「これだけは確認テスト」の実施)
- ・定期考査前の学習委員作成による予想問題の実施。
- ・過去問題・家庭学習ハンドブック・活用する力を高めるワーク、演習プリントの活用  
(単元別におこなう。特に定期考査前に試験範囲分を実施し、考査に出題する。)

##### <今後、定期的に取り組む事項>

- ・全校での漢字、英単語コンクールの実施(2学期末に、国語科主導で、3学期に英語科主導で学年ごとの問題を作成して実施する。上位クラスを表彰する。)
- ・書くことの習慣化(朝自習で、漢字、英単語、社会、理科の語句など繰り返し書く)。朝自習が不十分な生徒は、居残りでも何回も書かせる。
- ・行事ごとに作文を書くことを定着させて、文章を書くことへの苦手意識の改善に努める。さらに評価の高い作品は学年・学級通信などで公表し、文章作成への意識・意欲を高める。
- ・朝自習の取り組みで、「登校した者から朝自習」を定着させ、8時20分には全員が着席して自主的に朝自習を行う習慣を身につける。

### ② 家庭生活習慣等に関する取組

#### ○ 家庭学習の定着化

- ・1日1ページノートの活用(1ページ、必ず自分で課題を決めてノートにまとめながら学習する)。  
(校内で、1日1ページノートコンクールを実施し、優秀作品は、家庭学習マイスターに応募する。)

#### ・週末課題、週末プリントの実施

- ・冬季、春季休業中に、課題学習として、過去問題、家庭学習チャレンジハンドブック、活用する力を高めるワークなどを活用する。家庭学習ハンドブックは、必ず回収して点検するとともに、学活などで解答、解説を行い、理解を深めさせる。

#### ・定期考査前の学習計画づくり

#### ○ 保護者への啓発方法

- ・進路通信、学年通信、学級通信などでの家庭学習の定着化の啓発(家庭学習チャレンジハンドブックは保護者にも見ていただくように啓発を行う)。
- ・考査後、迅速な成績処理を行い、保護者へ成績を返却することで、家庭でも学習の足跡の振りかえりを行って、今後の学習に生かす手立てとしてもらう。

#### ○ 学習規律の徹底、基礎学力の定着化

- ・チャイム席の徹底(チャイムがなる前に着席するように声かけをする)。
- ・授業の開始時に、振り返りテストや基礎確認テストを行うことで、基礎学力の向上につなげる(静肅な雰囲気の中でテストに臨むことで、落ち着いた雰囲気の中で授業を始めることが期待できる)。